HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

The Ulcerative Colitis Endoscopic Index of Severity more accurately reflects clinical outcomes and long-term prognosis than the Mayo endoscopic score

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2016-03-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 池谷, 賢太郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/2923

論文審査の結果の要旨

潰瘍性大腸炎の内視鏡検査は、治療方針の決定や、治療効果など病態の評価に必須の検査だが、客観的で実用的な評価法は、現在でも種々の提案がなされているような状況である。近年、いままでの Mayo 内視鏡スコア(Mayo ES)という 4 段階にわける方法に対し 9 段階にわける潰瘍性大腸炎内視鏡的重症度インデックス Ulcerative Colitis Endoscopic Index of Severity（UCEIS）が提唱された。申請者は、タクロリムス投与の治療効果を評価するために、UCEIS を自験例 41 例に適用し、Mayo ES との相関、タクロリムス投与前後の比較、外科手術にまわさざるを得なくなるといった予後との関連を検討した。

その結果、UCEIS は Mayo ES よりも多面的な表現型の評価ができるので、両者は全体としてはよく相関するが、UCEIS のほうが予後との関連について良好な関係をみとめた。とくに UCEIS が治療前後で 3 点以上下がるという所見が、良好な予後を示唆する臨床的指標となることを明らかにした。

申請者はこの研究が、後ろ向きの解析をした例を含むこと、階層化した解析などをするには症例数が不十分であることなどの限界を十分理解した上で、UCEIS の臨床現場での有用性をはじめて示した。さらに内視鏡所見の動画あるいは静止画像の観察者間の差、標準化といった課題をあげ、本研究の将来性を示した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　　主査　椙村　春彦
　　副査　須田　隆文　　副査　和田　英俊